

エコアクション 21

環境経営レポート

対象期間：2024 年 4 月～2025 年 3 月

発行日：2025 年 4 月 21 日

本州大分段ボール(株)

目次

環境経営方針	P3
1. 組織概要	P4
2. 環境経営目標	P5・6
3. 実施体制	P7
4. 役割と責任及び権限	P8
5. 環境経営計画・評価	P9
6. 環境経営目標の実績、 評価と今後の取組内容	P10・11
7. 環境関連法規制等遵守評価表	P12
8. 代表者による全体評価と見直し	P13

環境経営方針

環境経営方針

王子グループ環境憲章に準じ、広く地球的視点に立って環境と調和した企業活動を展開し、環境改善に取り組むと共に、紙のリサイクル、地球温暖化対策等を積極的に推進する。

行動指針

当社は、事業活動の全てを通して、継続的な環境負荷の低減に努めます。また、下記の項目を重点管理テーマとして取り組みます。これらの重点テーマについては目標を設定し、PDCAを回すことで継続的改善に努めます。

- ① 当社事業に関係する環境関連の法規制を遵守します。
- ② 電気及び、化石燃料の消費に伴う二酸化炭素の発生抑制に努めます。
- ③ 事業活動において、廃棄物の発生を抑制し、廃棄物の排出削減に努めると同時にリサイクルの推進、廃棄物の有効利用を推進します。
- ④ 生命を育む貴重な水資源の節約に努めます。
- ⑤ グリーン調達を心がけ、安全で環境負荷の少ない資材の使用に努めます。
- ⑥ 環境に優しい製品の開発、提供に努めます。

この環境経営方針は全従業員に周知、徹底すると共に、社内外に公表致します。

制定日：2010 年 12 月 1 日

更新日：2022 年 4 月 1 日

代表取締役
赤城 正晃

1.組織概要

1).事業所名：本州大分段ボール 株式会社 代表者名：代表取締役 赤城 正晃

2).所在地 本社・本社工場 〒879-1124 大分県宇佐市大字山 255 番地の 1
TEL(0978)37-2155 FAX(0978)37-2157

3).環境管理責任者： 赤城 正晃 連絡担当者：渡辺 信一郎
連絡先： TEL(0978)37-2155 FAX(0978)37-2157

4).事業内容 段ボール製品の開発、製造、販売

5).事業規模（売上高は 2024 年度実績）

資本金 ：1000 万円

売上高 ：360 百万円

従業員数：合計 20 人

敷地面積：合計 1200 m²（本社・本社工場 1200 m²）

6).事業年度(会計年度) 期首：4 月、期末：3 月

7).認証、登録の対象範囲（全組織、全事業活動）

①登録名 ：本州大分段ボール 株式会社

②活動 ：段ボール製品の開発、製造、販売

③対象サイト ：本社・本社工場

8).沿革

1974 年 9 月(昭和 49 年) 本州製紙系列：西日本パッケージ(株)大分工場として操業

1979 年 10 月(昭和 54 年) 本州製紙系列段ボールメーカー10 社合併

「本州ダンボール工業(株)大分工場」となる。

1986 年 4 月(昭和 61 年) 本州製紙と本州ダンボール工業との合併により

「本州製紙大分事業所」となる。

1988 年 4 月(昭和 63 年) 本州製紙より分離、独立「本州大分段ボール(株)」を設立。

1996 年 10 月(平成 8 年) 本州製紙と新王子製紙の合併により王子製紙段ボール加工グループの一員となる。

2005 年 3 月(平成 17 年) 中津加工所を開設(北九州パッケージ解散により一部商圏引受け)。

2006 年 10 月(平成 18 年) 本社(宇佐市大字山)の工場等全焼。

2007 年 10 月(平成 19 年) 本社工場竣工。

2013 年 3 月(平成 25 年) 中津加工所閉鎖

2025 年 4 月(令和 7 年) 現在に至る。

2.環境経営目標(2023～2024 年度目標)

環境方針の番号	選択課題	基準年度 2022 年度実績	2023 年度 目標	2024 年度 目標
1	二酸化炭素排出量削減	66,412	65,748	65,084
		Kg-CO2	△1%	△2%
1-1	電気使用量削減	42,434	42,010	41,585
		kWh	△1%	△2%
1-2	化石燃料消費量削減	19,782	19,584	19,386
		ℓ	△1%	△2%
2	産業廃棄物排出量削減	0.3	—	—
		トン	1t 以下	1t 以下
3	水使用量削減	138	137	135
		m ³	△1%	△2%
4	環境配慮製品の提案件数 環境配慮製品の採用件数	20 件	20 件以上	20 件以上
		5 件	5 件	5 件

※二酸化炭素排出量の計算は、九州電力の 2021 年度調整後排ガス係数 0.392(kg-CO2/kWh)を使用しています(3 年間使用)。

※EA21 で要求されている化学物質の削減については、当社には PRTR 法対象物質が無いため、環境方針、目標には含めておりません。

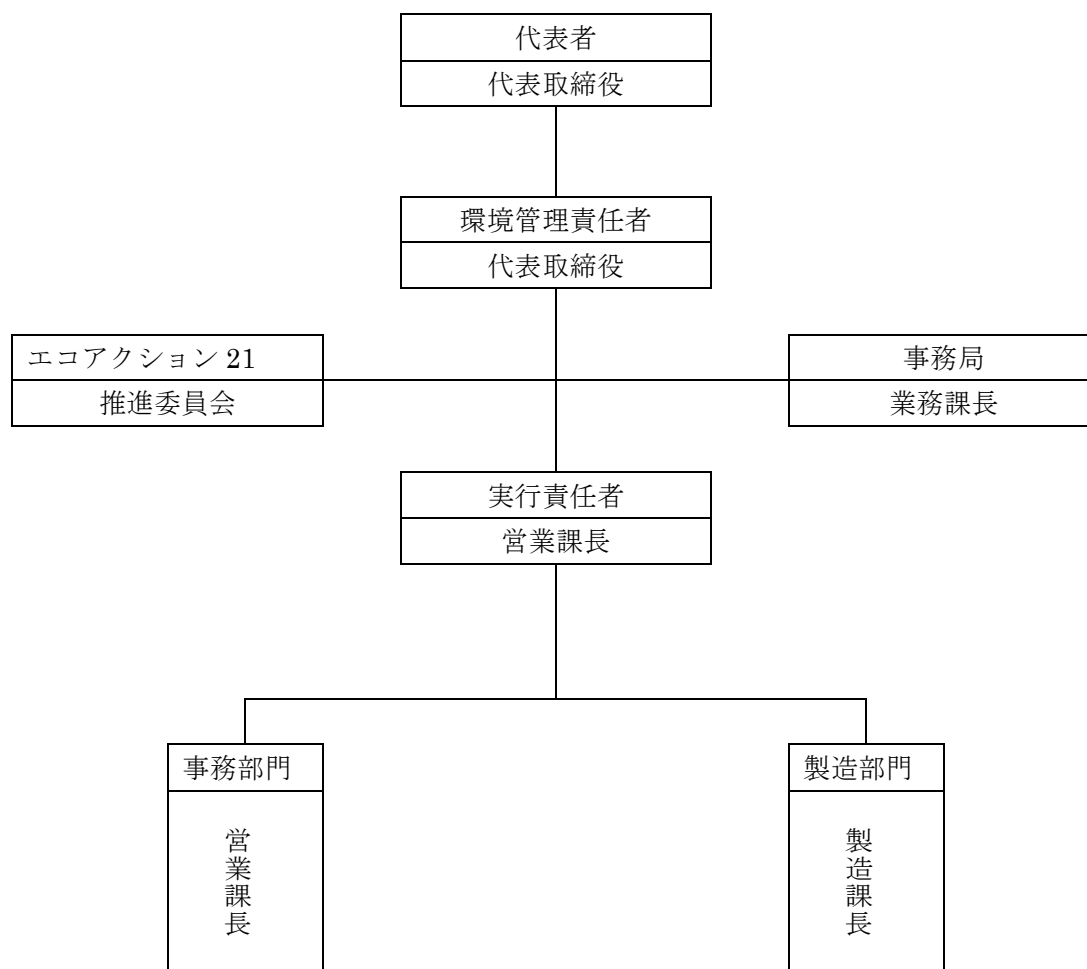
2.環境経営目標(2025～2026 年度目標)

環境方針の番号	選択課題	基準年度 2024 年度実績	2025 年度 目標	2026 年度 目標
1	二酸化炭素排出量削減	42,710	42,283	41,856
		Kg-CO2	△1%	△2%
1-1	電気使用量削減	49,138	48,647	48,155
		kWh	△1%	△2%
1-2	化石燃料消費量削減	9,224	9,132	9,040
		ℓ	△1%	△2%
2	産業廃棄物排出量削減	1.73	—	—
		トン	1t 以下	1t 以下
3	水使用量削減	138		
		m ³	△1%	△2%
4	環境配慮製品の提案件数	20 件	20 件以上	20 件以上
	環境配慮製品の採用件数	5 件	5 件	5 件

※二酸化炭素排出量の計算は、九州電力の 2023 年度調整後排ガス係数 0.402(kg-CO2/kWh)を使用しています(3 年間使用)。

※EA21 で要求されている化学物質の削減については、当社には PRTR 法対象物質が無いため、環境方針、目標には含めておりません。

3.実施体制



4.役割と責任及び権限

	役割 権限 責任
代表者	・環境経営に関する統括責任者 ・環境経営に必要な経営資源（人・物・資金）を準備する ・環境管理責任者の任命 ・環境方針を定める ・環境経営目標及び環境経営計画、実施体制を承認する ・代表者による全体の評価と見直しを実施する ・環境経営レポートの承認 ・経営における課題とチャンスを明確にする
環境管理責任者	・環境経営システムの構築、運用、管理に関する責任者 ・環境経営システムの運用、管理状況を代表者に報告する ・エコアクション 21 推進委員会の責任者 ・環境関連法規等のとりまとめ表の承認、遵守状況チェック結果の承認 ・環境経営目標、環境経営計画、実施体制の確認 ・環境上の緊急事態の想定及び対応策の承認 ・問題点の是正及び予防処置の承認 ・環境経営レポートの確認
事務局	・環境管理責任者の補佐、エコアクション 21 推進委員会の事務局 ・環境関連文書、記録の管理 ・環境経営活動に関する実績のとりまとめ ・外部環境コミュニケーションに関する窓口 ・環境経営レポートの作成
エコアクション 21 推進委員会	・環境経営活動に関する重要事項の審議（環境方針、目標、活動計画、経営システム） ・各部門の実施状況、目標達成状況、問題点などの報告
実行責任者	・目標達成状況を委員会に報告する ・目標に対する達成度評価に基づき、関係部門と調整の上に問題点(是正、予防)処置報告書の作成を行う ・目標達成に向けた推進役
部門長	・自部門における環境経営活動の実施 ・自部門に必要な手順書などの作成、管理
全従業員	・環境方針、環境経営目標などの理解と自らの役割を自覚する ・自主的、積極的に環境経営活動に参加する

5.環境活動計画(2023～2024 年度)・評価(2024 年度)

環境方針 の番号	目標課題	具体的な内容	頻度	結果	評価日/評価者
1	二酸化炭素排出量削減				
1-1	電気使用量削減	1. 昼休みの消灯	通年	○	2025/4/10 赤城正晃
		2. 空調の適正管理	夏・冬期	○	2025/4/10 赤城正晃
		3. エアコンフィルターの定期清掃	夏・冬期	○	2025/4/10 赤城正晃
		4. グリーンカーテンの設置	夏期	○	2025/4/10 赤城正晃
		5. LED 照明の導入	通年	—	2025/4/10 赤城正晃
1-2	化石燃料消費量削減	1. アイドリングストップの推進	適時	○	2025/4/10 赤城正晃
		2. 乗車前の点検（タイヤ空気圧など）	適時	○	2025/4/10 赤城正晃
		3. エコドライブ	通期	○	2025/4/10 赤城正晃
		4. ハイブリッド車の導入	適時	○	2025/4/10 赤城正晃
2	産業廃棄物排出量削減	1. 各種産業廃棄物の分別・リサイクル	通年	○	2025/4/10 赤城正晃
		2. 有価物の選定	通年	○	2025/4/10 赤城正晃
		3. 簡易包装による梱包材使用削減	通年	○	2025/4/10 赤城正晃
3	水使用量削減	1. 洗車時の節水励行	通年	○	2025/4/10 赤城正晃
4	環境配慮製品の提案件数 (材料の減量、歩留まりの良 い製品等)	1. 顧客へのコストダウン提案	通年	○	2025/4/10 赤城正晃
		2. エコ商品の拡大	通年	○	2025/4/10 赤城正晃

6.環境経営目標の実績、評価と今後の取組内容

項目	基準年 実績値 (2024 年)	目標値 (2025 年)	実績値 (2024 年)	達成度	判定	評価及び今後の取組内容 (運用期間 2024 年 4 月～2025 年 3 月)
二酸化炭素排出量削減	70,274	65084	42219	166%	○	夏季の熱中症対策を含め、コロナウイルスへの対策を継続して行っているため、空調設備の使用頻度が高くなっています。 今後は節電を心がけて、使用量の削減に努めていきます。
電気使用量削減(kWh)	42,434	41585	49138	86%	△	
化石燃料消費量削減(ℓ)	19,782	19386	9224	214%	○	
産業廃棄物排出量削減 (トン)	0.3	1t 以下	1.73t	173%	×	グループの安全対策により、工場内の整理整頓を実施したところ、5 年以上使用していない抜型が多数保管してあったため、廃棄を行いました。そのため、排出量が発生しています。
水使用量削減 (m³)	138	135	143	97%	△	夏場の熱中症対策の 1 つで、工場での入り口付近に打ち水を実施しており、その分の水使用量が増加しております。
環境配慮製品の提案件数 (件)	20 件	20 件以上	20	100%	○	価格改定による価格の転嫁より、梱包仕様を見直す、または設計に適した材料発注を行うよう心がけています。最低ロットのルールがある中、製品単体でのコストは増加しても、総購入量を下げることによってコスト増を抑える活動を継続していきます。
環境配慮製品の採用件数 (件)	5 件	5 件	5	100%	○	

※二酸化炭素排出量の計算は、九州電力の 2021 年度調整後排ガス係数 0.392(kg-CO2/kWh)を使用しています(3 年間使用)。

※評価： ○良好(目標以上を達成)、△やや問題(85%以上を達成)、×問題(達成度が 85%未満)

※次年度は 4 ページに記載のある環境目標と 7 ページに記載のある環境活動計画を継続します。

6.環境経営目標の実績、評価

取組に対する対策内容	目的
グリーンカーテンの設置(継続)	・ 事務所 事務所内空調の節電を目的として設置しました。
大型扇風機の配置(継続)	・ 工場出入口 出入口に大型扇風機を配置し、工場内の空気の攪拌を目的として使用しました。
エアコン継続稼働の実施(継続)	・ 事務所・休憩室 事務所、および休憩室のエアコンの継続稼働を実施した。 ON と OFF の切り替えによる電力消費の削減を目的として設置しました。
水使用量削減(継続)	・ 事務所 衛生管理面から手拭きタオル常設を廃止し、各自でハンカチ等を持参するようにしました。
産業廃棄物排出量削減(継続)	・ 工場 廃プラスチック類として排出していたものを一部有価物扱いに変更しました。

今後の取組内容

重点項目	取組に対する対策内容	目的
化石燃料消費量削減	配送効率の最適化	・ 配送 配送ルートを選定において最適なルートを常に検討する。
電気量削減	事務所棟の蛍光灯類の LED 化	・ 事務所 設置している蛍光灯数を再検討し、LED に変更して電気使用量の削減を検討する。

7. 環境関連法規等遵守評価表

適用法規	該当設備施設	法規の要求事項	遵守評価結果	備考
浄化槽法	・浄化槽	法定検査、定期点検、定期清掃の実施、特定施設の届出	○	
廃棄物処理及び清掃に関する法律	・金属くず、廃プラ、ガラスくず、木くず ・その他一般廃棄物	保管場所表示、保管基準の順守	○	
		運搬・処分業者との委託契約	○	
		マニフェストの交付・回収	○	
		マニフェスト交付状況の報告	○	
リサイクル法	・パソコン	長期使用、再生資源の努力義務、適正処理	○	廃棄発生無し
家電リサイクル法	・テレビ、エアコン、冷蔵庫、洗濯機	買換時リサイクル料負担、適正処理	○	廃棄発生無し
自動車リサイクル法	・2tトラック1台	車検又は買換時リサイクル料負担、適正処理	○	廃棄発生無し
フロン排出抑制法	・業務用エアコン	回収・運搬・破壊に要する料金の支払い、適正処理	○	廃棄発生無し
		定期点検	○	
道路交通法	・アルコールチェック	業務前のアルコールチェック	○	2022 年 4 月法改正より
	・安全運転管理	社用車 5 台以上使用の事業所は専任が必要	○	
消防法	・指定可燃物 (段ボール)	指定可燃物貯蔵取扱届出書	○	
		技術上の基準の遵守	○	

(1).環境管理表記の遵守の有無

環境管理法規制の遵守活動を行い、遵守評価を行った結果、遵守しており環境管理法規への違反はありません。

(2).指摘、訴訟などの有無

環境関連法規への活動を通して過去 3 年間にわたり、関係当局からの違反等の指摘はありません。また周辺住民からの苦情もなく、訴訟についてもありません。

8. 代表者による全体の評価と見直し

弊社本州大分段ボール株式会社は、王子ホールディングス産業資材カンパニーの一員として王子グループ環境憲章に則り、広く地球的視点に立って環境と調和した企業活動を展開し、真に豊かで持続可能な社会の実現に貢献すべく、当年度もエコアクション21に取り組んで参りました。

此度の更新審査に於いては、まず二酸化炭素排出量、化石燃料消費量の2項目において、前年に引き続き大幅に削減することができました。一昨年 of 配送の効率化、昨年のハイブリッド営業車導入、これら二つの対策の影響が継続しています。その一方、電気使用量については、猛暑続く夏季の体調管理を優先し、熱中症対策ブースの設置と専用の空調機を増設したその後の影響がマイナス面に継続しています。今期も空調機台数を増やすなど性能拡張をしており、来期についてはこまめな機器の電源オン/オフなど節電習慣の定着に努め、制御してまいります。グループ全体の強化安全策実施に伴う構内の5S推進の際生じた廃棄木型の影響でここ数年ぶりの木くず、金属くずの排出がありました。環境配慮型製品の提案について、取引先各社の価格改定要請に伴い、梱包仕様を見直す、または設計に適した材料発注を行うようにしています。原反の最低ロットルール等が顕著になる中、製品単体でのコストは増加しつつも総購入量を削減することでコストアップを抑える購買活動を継続していきます。効率的な配送ルートの勘案、また手作業での製品積み下ろし主体の納品形態からパレット配送形態への改変による内燃機器稼働時間の短縮へのご理解啓蒙など、お客様にも選択可能なCO2排出削減案をご提案し、王子グループとしてさまざまな情報、環境対応製品のご提供も行い、広く活動して参ります。

今後も変化著しい環境問題に柔軟に対応し、従業員の環境意識定着と地道な努力を以て目標の達成に努め、環境負荷の低減と持続可能な社会の発展に貢献し、それらを成し得る責任感ある自律した人の集う職場づくりに邁進いたします。これからも引き続きエコアクションに真摯に取り組んで参ります。

次期、化石燃料の消費量削減については、次回の営業車更新にガソリン車1台のハイブリッド車化の予定が進められており、さらなる削減効果が期待できます。

電気使用量については、熱中症対策ブースの空調機増設に伴う電力消費量増が懸念されますが、作業場密な室内環境での感染症を避ける為のこまめな換気にも配慮しつつ、機器の効率的な運用に努めて参ります。事務所・休憩室の空調機器の使用について、日中の使用開始気温基準の励行、照明機器のLED化計画も進めてまいります。定例になっておりますニガウリ植栽による『グリーンカーテン』も実施継続。また、昨年導入を再開した空調服に体調監視センサーブレスレット等を併用しながら目標管理をして参ります。

水の使用量については、熱中症対策としての工場建屋周辺の散水に費やす量が毎年増加傾向にあり、代替の効果的な方策も無く最も苦慮しています。

環境関連法規制については、現在も王子グループ環境憲章と企業行動憲章に基づき実践を行い、滞りなく遵守されております。王子HDグループである弊社は「安全・環境・コンプライアンス」を企業活動における重要経営課題として最上位に位置づけ、最優先事項として事業運営を進めております。グループ行動憲章の朝礼時の全従業員による読み上げなど、日頃より従業員の意識啓発を推進しております。グループ内高水準での環境基準値による諸規格の管理実施を通じて近隣地域社会との連携にも積極的に関わっています。弊社における具体的な苦情・重大なクレーム等の報告例は今期もございませんでした。弊社はこれからも社会を構成する良き一員として誠実な活動体制を維持し、社会的責任を果たしながら持続可能な環境づくりに貢献して参ります。